

コラム 秋田県由利本荘市で発生した土砂崩落に関する技術指導

平成 25 年 11 月 21 日、秋田県由利本荘市の市道で、災害復旧の作業中に土砂崩落が発生し、作業員 5 名が巻き込まれ、行方不明となりました。

事故発生直後より、自衛隊、警察、消防等による捜索活動が行われましたが、捜索現場に堆積した崩落土砂は泥濘化しており、不安定であることや、折からの降雨により捜索現場上方の崩落の拡大がみられたことから、捜索の継続が困難となりました。

土木研究所では、国土交通省東北地方整備局からの技術支援要請を受け、捜索活動の安全確保のための技術指導のため、寒地基礎技術研究グループ、地質・地盤研究グループ、施工技術チームおよび土質・振動チームから 6 日間にわたり計 5 名（延べ 14 人・日）の専門家を派遣しました。

現地では、崩落が懸念される現場上部斜面の安定性調査を行い、捜索活動の安全確保のための大型土のうによる土堤を設置して安全を確保した上での捜索活動再開を助言しました。

また、毎朝、捜索活動開始前に現場に入り、安全を確認した上での作業可否の助言、堆積土砂を不安定化させないための排水ルートの確保や土砂撤去方法の指導、緊急時の捜索活動中断の判断等により現場の活動の支援を行いました（写真-1、2）。

捜索活動は、残念ながら生存者なしという結果となりましたが、一連の支援に対して由利本荘市より礼状が送られました（写真-3）。

また捜索活動終了後は、由利本荘市が発足させた土砂崩落技術調査委員会に委員として参画し、事故発生の要因分析や再発防止策等の検討に土砂災害の専門家の立場から協力しています。

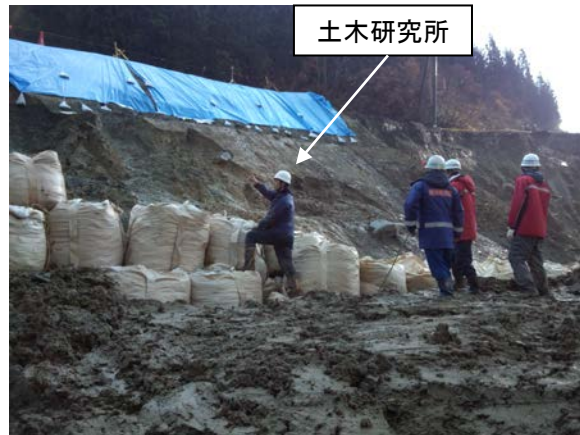


写真-1 捜索活動開始前の早朝の安全確認

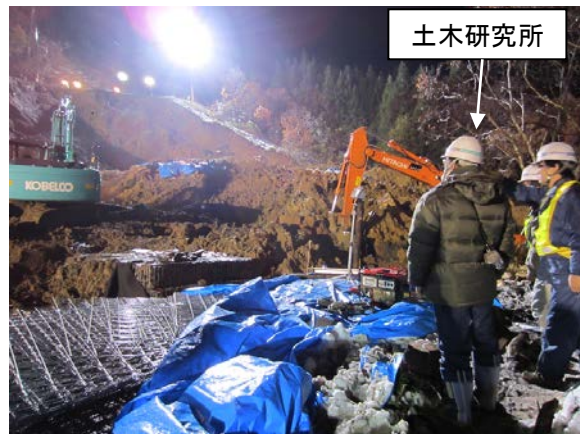


写真-2 不安定土砂の掘削方法の指導



写真-3 由利本荘市からの礼状